

地域の声

①北海道教育大学函館校と連携した地方創生の実現に向けて

北斗市総務部企画課企画係
係長 村田 貴一

1.巡回型サテライト・オフィスの開催

北斗市では、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、少子高齢化や人口減少といった最重要課題解決を目指す諸施策の推進に取り組んでいる。

令和3年10月に総合戦略検討・推進会議を開催し、総合戦略に基づき実施している個別の事業の進捗状況等について評価を行った。

この会議は、北海道教育大学函館校地域協働推進センターの齋藤センター長に会長を務めていただいております。会議内で地方創生に係る渡島管内自治体と北海道教育大学函館校との連携事例が紹介されたことが契機となり、今回巡回型サテライト・オフィスが開催されたものである。

2.連携への期待感

令和3年11月22日、「観光と教育」をテーマに巡回型サテライト・オフィスが開催され、北海道教育大学函館校における地域プロジェクト等の地域協働の取組、教職大学院函館校の人材育成の取組及び附属函館中学校のGIGAスクール構想の取組について報告があったほか、国際協働グループ3年秋山ひかる氏からは、函館市内3地区（西部地区・谷地頭地区・五稜郭公園）で行われた観光コンシェルジュ実習の事例が報告された。

体験型観光の促進は当市の重要課題であり、民間事業者を中心に担い手づくりに取り組んでおり、着地型観光プログラムの令和4年度事業化を目指している。観光ガイドやイベント企画等に学生が関与することは、より魅力的なプログラム造成に

資すると考えられる。

市と大学とが連携し、学生がその感性を活かした企画や商品開発、ブランディング等地域課題解決に関与できれば、学生にとっても地域から学びを得る機会となるのではないだろうか。

3.今後の展開

人口減少問題を行政だけで解決することは不可能であり、多様な主体と相互に連携した取組が不可欠であるとの考えに基づき、総合戦略を効率的・効果的に推進するための方策のひとつとして「北斗市創生を支える多様な主体との連携」を掲げている。

北海道教育大学函館校は、人文・社会・自然科学といった幅広い分野の専門教員を抱えているほか、国際地域学科で地域振興や地域の課題解決を学ぶ学生が多く在籍している。

北斗市と北海道教育大学函館校とが連携することで、大学教員の専門的な知見や、既成概念や固定観念にとらわれない学生の柔軟な発想・視点を施策に反映し、本市の地方創生の取組を加速させていきたい。

